

「秩父きゅうり」守る若者



東京出身
小鹿野町で
新規就農

幼少期からの夢実現

みどりの食料システム認定も

横田さん

【埼玉】県西部の中山間地域にある小鹿野町で新規就農した横田寛明さん(26)の1写真。地域のブランド農産物を支える

農業者として活躍している。

東京都出身の横田さん。幼少期には同町にある祖父の畑や山をよく訪れ、「大人になったら農業か林業をやる」と思っていた。その思いは変わらず、就職を考えたときに農家への道を選んだ。

まず、県の農業大学校で基礎を学んだ後、実践的な営農技術を学ぶため、新規就農者支援プログラムの一「小鹿野町明日の農業担い手育成塾」に入塾。同塾でキュウリづくりに取り組んだ。

同町のキュウリは「秩父きゅうり」の名で市場

から高い評価を受けてきた地域ブランドだ。

指導にあたるベテラン農家のもとで、高度な栽培技術や地元の人とのつながりなど多くを学んだ。卒業後の2022年、横田さんは同町のキュウリ農家となった。

就農から3年。横田さんは意欲的に農業に励んでいる。今年3月には「みどりの食料システム法」に基づく認定を知事から受けた。今後は高品質な「秩父きゅうり」ブランドを守りつつ、環境負荷の低減に取り組みしていく考えだ。

横田さんがやりがいを感じる時は、キュウリを食べた人から「おいしー」の言葉が聞けたときだという。将来的には、規模拡大し法人化もめざ

していきたいと考えている。そう話す横田さんのたずまいは、しっかりとした地域農業の担い手そのものだ。